

わんにゃん通信 1 月号

2026 年 1 月 担当：袈裟丸



明けましておめでとうございます。 本年もよろしくお願いします！！



新しい年になったので、気持ちを切り替えて今年も頑張っていこうと思います。

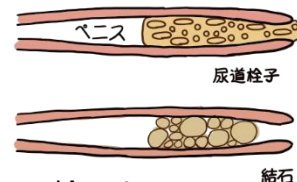
さて、今回のテーマは、冬の時期に多い**猫の尿道閉塞**についてです。

●尿道閉塞とは

尿は腎臓で作られて、尿管、膀胱、尿道を経て排尿されます。尿道閉塞は、その中の**尿道という尿を体外に排泄する管が詰まってしまう**ことで引き起こされます。また、気温が下がり、**猫の飲水量が少なくなる冬（寒い時期）**に増えてきます。尿道閉塞は、**メス猫よりも尿道が狭いオス猫**に多く、なかでも**早くに去勢手術を行い陰茎の発達が不十分なオス猫**や**肥満のオス猫**はなりやすい傾向にあります。

●主な原因

- ・尿道結石：尿道に石が詰まること。
- ・尿道栓子（にょうどうせんし）：結晶、粘液、膿などが混ざって栓になること。
- ・猫特発性泌尿器症候群（FIU）：ストレスなどが関連し、炎症が原因となること。



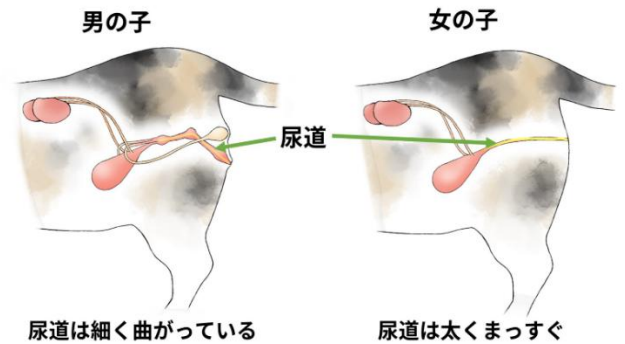
●主な症状

- ・排尿姿勢を何度もとるが、尿が出ない、または少量しか出ない。
- ・頻繁にトイレに行く。
- ・落ち着きがなくなる、外陰部を気にしてよく舐める。
- ・元気・食欲がない。
- ・体を触ると嫌がる、怒る。
- ・しんどそうに呼吸する。
- ・嘔吐
- ・ぐったりする
- ・異常な鳴き声を上げる。
- ・暗い所や家具の後ろなどに隠れる。 など



●なぜオス猫に多いのか

- ・オス猫の尿道は細く、S字にカーブしているため、結石や栓が詰まりやすい構造をしているためです。



●危険な理由

- ・尿が出せないと、膀胱がパンパンに膨らみ、腎臓に負担がかかるため。
- ・体内の有害物質（尿毒素）が排出されず、体内に蓄積し、急性腎不全や尿毒症を引き起こし、短時間で命を落とす可能性があります。

●対処法と予防

- ・ **水分補給**：冬場は特に飲水量が減るため、水飲み場を増やしたり、ウェットフードを与えたりして、水分摂取を促しましょう。
- ・ **ストレス軽減**：ストレスも原因となるため、環境を整えることも大切です。
- ・ **すぐに病院へ**：尿が出ない場合は、様子を見ずにすぐに動物病院に受診することが重要です。日頃から排泄の状況をしっかりと把握し、おかしい様子が見られたらすぐに病院へ受診しましょう。
- ・ **再発予防**：尿道閉塞になってしまったら、原因に応じた治療が必要になる場合があります。（食事療法・内科療法・手術など）

➡ 尿道閉塞の原因にもなる下部尿路疾患（特発性膀胱炎、ストルバイト結石症及びシュウ酸カルシウム結石症）の療養食をいくつか紹介します！

NU
11-1
ドライ



NU
11-2
ドライ



NM
11-1
ドライ



NM
12-1
ドライ



パウチもあるので参考にしてみてください。

おしっこトラブルがあった場合は、早めに動物病院へ受診を！

